

調 査 研 究 活 動 実 績

大石 宗

令和元年度の政務調査費研究に関する主な活動の実施状況を報告いたします。

1. 高知版ソサエティー5.0 社会の構築に向けての調査研究

AI や IoT などの第四次産業革命に資する新技術を取り入れた地域課題克服のため、医療・教育・一次産業等の活用が見込まれる現場の調査を行うと共に、都市圏の成長企業の皆さんとの意見交換や高知県への企業誘致活動についての調査を行った。企業誘致に関しては、実際に進出を決定した企業などの調査なども行い、現状の課題と今後の取り組みについても分析、次年度の取り組みに活かしていく予定。

2. 学校教育を中心に地域における人材育成についての調査研究

中山間地域の小規模校がこれ以上統合されないよう、魅力のある学校づくりについて調査研究を行なった。

県立高等学校においては AI 教育が導入される見通しとなったことから、AI 技術を活用しながら、地域の一次産業の課題解決に生徒が取り組む仕組みについて調査研究を行なった。

3. 高知県の歴史と文化の保存についての調査研究

地域福祉部の所管する軍歴証明である兵籍簿並びに、沖縄県八重瀬町にある土佐の塔について調査研究を行った。

また、追手前高校に現存する奉安殿の文化財登録や兵籍簿の要件緩和について、朝倉 4 4 連隊跡地の歴史施設としての活用について、公文書館における歴史資料の取り扱い等についても調査を行った。

次年度は引き続き、こうした資料の保存のあり方についての調査研究と歴史文化施設への支援に取り組んでいく。

4. 一次産業の振興についての調査研究

一次産業への IoT 技術の導入について、県の取り組むネクスト次世代型施設園芸農業について、環境制御技術の導入による農家の経営状態の変化や、今後のシステ

ム導入における知的財産の保護などに関する課題等の調査研究を行なった。
水産業においては、六次産業化の現場実地調査並びにカツオマグロ漁について、人材の確保の課題、漁獲制限の課題等についての調査研究を行った。

5. 高知港活性化についての調査研究

県土整備、特に高知港の今後のあり方について調査研究を行った。

潮江地区においては高知市と連携して賑わいの場所としての再開発を行う必要性について検討を行った。また、高知県が事務局を務めるイナップ会議に参加し、提携港との今後の連携のあり方について協議を行うと共に、アジア圏における本県貿易振興についての調査研究も行った。

6. コロナウイルス対策についての調査研究

コロナウイルスの影響について医療・経済・教育という観点から調査研究を行なった。医療においては、医療機関並びに医療従事者への現場課題の聞き取り、経済では特に売り上げなどに影響が大きいと思われる、ホテル、旅館業、また飲食店経営者などの事業者から現状について、また、スーパーマーケットなどの小売店の販売状況や日本酒メーカーの経営状況についても調査を行った。

教育に関しては、休校措置になった場合の影響と今後のオンライン教育推進の現状と課題について、学校関係者並びに保護者より聞き取りを行った。

7. 住民座談会の実施

高知県民の県政に対する意見を聴取するため、各地の集会所並びにオンラインでの県政意見交換会を実施した。

8. 地域活性化に関する調査研究

埼玉県大宮市並びに神奈川県鎌倉市を視察し、学生との協働やコワーキングスペースの整備、民間のアイデアを地域作りに取り込む会議の運営等の先進事例について調査研究を行った。

9. 国際交流に関する調査研究

本県と縁の深い韓国との文化経済交流、ミクロネシア連邦との文化経済交流、合わせて本県が事務局を務める太平洋島嶼国・日本自治体ネットワークに関する調査研究を行った。

以上